

撮影編の構成

- 基本的な撮影手順 28ページ



ピント関連

ピント合わせ方法の選択

- オートフォーカス (AF) 30ページ
- マニュアルフォーカス (MF) 32ページ

AFモードの選択

- シングル 34ページ
- コンティニアス 35ページ

AFエリアの選択

- 3点AF 36ページ
- スポットAF 37ページ
- フォーカスロック撮影 38ページ
- プレビュー (絞り込み) 40ページ



巻き上げ関連

ドライブモードの選択

- 1コマ撮影 41ページ
- 連続撮影 41ページ
- セルフタイマー撮影 42ページ
- ミラーアップ 43ページ
- 多重露出撮影 45ページ



露出関連

露出モードの選択

- プログラム自動露出 47 ページ
- 絞り優先自動露出 48 ページ
- シャッター優先自動露出 49 ページ
- マニュアル露出 51 ページ
- バルブ 53 ページ

測光モードの選択

- 分割測光 57 ページ
- 中央重点測光 58 ページ
- スポット測光 59 ページ
- 露出補正 60 ページ
- オートブラケット撮影 61 ページ
- AE ロック撮影 65 ページ



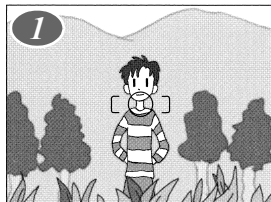
ストロボ関連

- ストロボの使い方 66 ページ
- 日中シンクロ撮影 70 ページ
- 低速シンクロ撮影 71 ページ

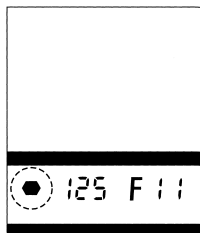
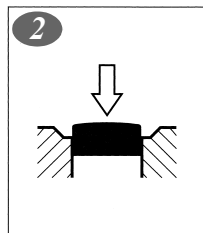
基本的な撮影手順

このページでのカメラの各設定は以下のとおりです。

- ピント オートフォーカス (🔍 30ページ)
- AFモード シングル[S] (🔍 34ページ)
- AFエリア 3点AF [] (🔍 36ページ)
- 露出 プログラム自動露出 (🔍 47ページ)
- ドライブダイヤルの位置 1コマ撮影 (🔍 41ページ)

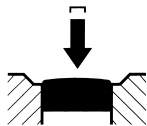


ファインダー内のAFフレーム [] の内側に被写体を合わせます。



シャッターボタンを半押しします。
ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。同時に自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内に [] が点灯します。

3



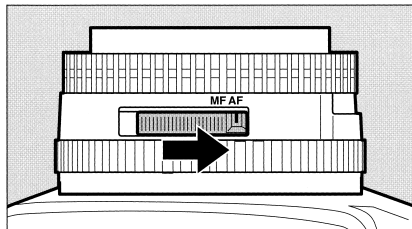
シャッターボタンを押しきります。(全押し)
シャッターボタンを半押しからさらに押し込むと、シャッターがきれ、自動的にフィルムが巻き上げられます。

- フィルムを入れて撮影する前に、シャッター半押しと全押しの感覚をつかんでください。
- ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押ししてから約10秒間は指を離しても表示されたままになります。この表示時間はペンタックスファクションの設定により変更することも可能です。(📖 76ページ)
- ピント合わせ時にファインダー内の $\blacksquare$ が点滅する場合は、被写体が近すぎるか、オートフォーカスの苦手な被写体(📖 30ページ)にピントを合わせようとしています。
- 一般的に、「レンズの焦点距離分の1」秒のシャッター速度が手持ちの撮影の限界とされています。例えば、75mmレンズでは1/75秒、150mmレンズでは1/150秒です。これ以下のシャッター速度になる場合は、三脚を使用するなどぶれに対する工夫が必要です。

オートフォーカス (AF)

オートフォーカスでは、シャッターボタンを半押しするだけで自動的にピント合わせが行なわれます。

- レンズ側の切り替え方法はレンズによって異なります。詳しくは、レンズの説明書をご覧ください。
- カメラ側にはオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えはありません。
- A レンズ [LS レンズを含む] ではオートフォーカスは働きません。
- AFモードにはシングルS (P. 34ページ) とコンティニアスC (P. 35ページ) があります。



レンズ側をオートフォーカスに切り替えます。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものです。万能ではありません。被写体下記のような場合には、ピントが合わないことがあります。ファインダー内の合焦マーク (P. 33ページ) を利用してのマニュアルフォーカスも同様です。

そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にフォーカスロック (P. 38ページ) をしたり、従来のカメラと同様にファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカス (P. 33ページ) をしてください。

- AFフレーム (P. 33ページ) の内側に白い壁などの極端にコントラスト [明暗差] の低い物だけの場合。
- AFフレーム (P. 33ページ) に光を反射しにくい物がある場合。
- 非常に速い速度で移動している物。
- 遠近のものがAFフレーム (P. 33ページ) の中で同時に存在する場合。
- 反射の強い光、強い逆光 [周辺が特に明るい物]。
- 格子など繰り返しパターンの場合。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク $\blacksquare$ を利用したマニュアルフォーカスできません。ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカス（ 33ページ）をしてください。

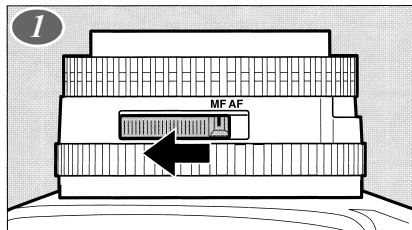
● 特殊なフィルターなどを使った場合。

● 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

偏光フィルターについて

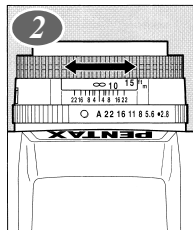
一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスおよび露出の精度が低下します。円偏光フィルターの使用をお勧めします。

マニュアルフォーカス (MF)

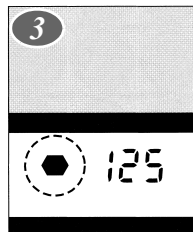


ファインダー内の合焦マーク $\blacksquare$ を利用する場合

レンズ側をマニュアルフォーカスに切り替えます。



シャッターボタンを半押しし、ファインダー内表示が点灯した状態で、レンズの距離リングを回します。



AFエリア内の被写体にピントが合うとファインダー内の合焦マーク $\blacksquare$ が点灯します。

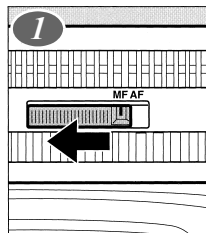
そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

- レンズ側の切り替え方法はレンズによって異なります。詳しくは、レンズの説明書をご覧ください。

合焦マーク■が使えない場合

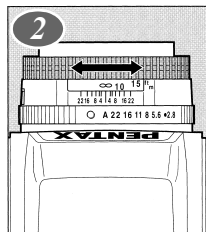
被写体が「オートフォーカスの苦手な被写体」(P.30ページ)に該当し、合焦マーク■が点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。

- カメラ側にはオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えはありません。
- レンズがAレンズ [LSレンズを含む] の場合やオート接写リングA645・リアコンバータA645などのアクセサリーを使用した場合も同じ使い方ができますが、カメラの設定に関係なくファインダー中央のスポット範囲円の内側でのみピント合わせが行われます。
- ファインダー内の合焦マーク■が使えるのは、レンズの明るさがF5.6および、それより明るい場合です。
- ピントが合った時に、ファインダー内の合焦マーク■の点灯と同時に電子音を鳴らすこともできます。(P.13ページ)



マット面を利用する場合

レンズ側をマニュアルフォーカスに切り替えます。

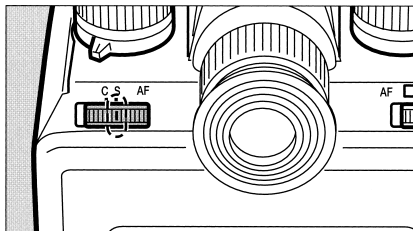


レンズの距離リングを回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

AFモード： シングル[S]

一般的なオートフォーカスモードです。シャッターボタンを押してもピントが合っていないとシャッターがきれません。

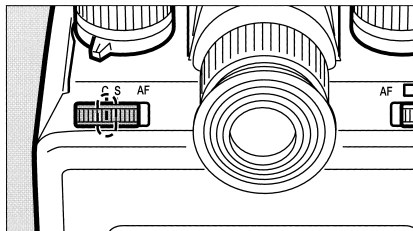
- A レンズ [LS レンズを含む]
ではマニュアルフォーカスになります。この場合、ピントが合っていないくてもシャッターはきれます。



AFモード切り替えレバーを[S]位置に合わせます。

AFモード： コンティニアス

シャッターボタンを半押ししている間、被写体の位置が変わっても、それに合わせて連続的にピントを合わせ続けます。ピントが合っていないなくてもシャッターボタンを押し込めばいつでもシャッターはきれます。



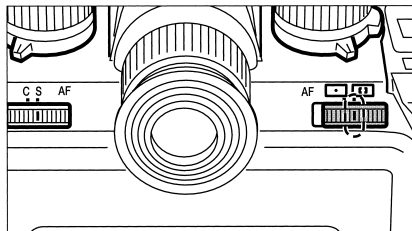
AFモード切り替えレバーを  位置に合わせます。

動体予測

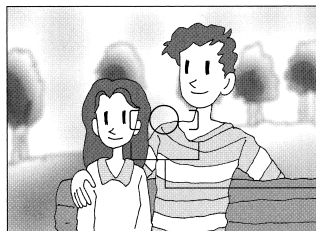
AFモードがコンティニアスでは、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。ただし、連続撮影の場合、2コマ目以後は、ピントが合わないとシャッターがきれません。

AFエリア： 3点AF

-  内に遠近の被写体が混在する場合は、その中で一番手前のものにピントが合います。
- ピントを合わせたいものがAFエリア内にない場合、または、ピントを合わせたくないものがAFエリアに入っている場合は、フォーカスロック撮影を行ってください。
( 38ページ)



AFエリア切り替えレバーを  位置に合わせます。

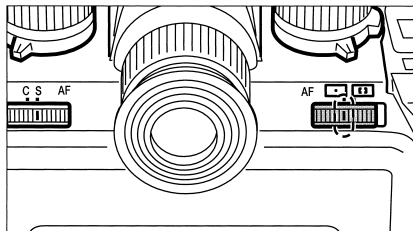


AFエリア

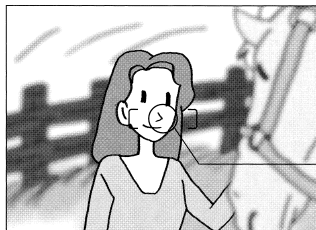
3点AFでは、ファインダー内の  の内側でピント合わせを行います。

AFエリア： スポットAF

- ピントを合わせたいものがAFエリア内にある場合、または、ピントを合わせたくないものがAFエリアに入っている場合には、フォーカスロック撮影を行ってください。
( 38ページ)



AFエリア切り替えレバーを  位置に合わせます。

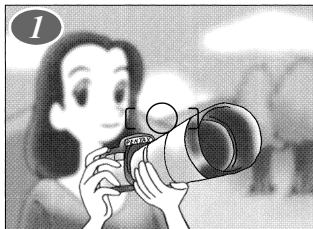


AFエリア

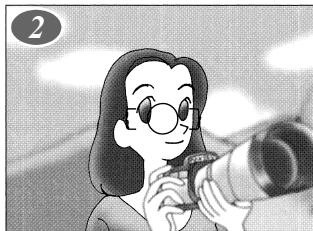
スポットAFでは、ファインダー内のスポット範囲円の内側だけでピント合わせを行います。

フォーカスロック 撮影

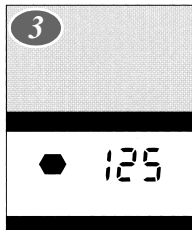
- AF エリアの設定が「3点AF」で、AFフレーム  内に遠近の被写体が混在する場合は、その中で一番手前のものにピントが合います。



このような構図の写真撮る場合、そのまま撮影すると人物の顔にピントが合わず、手前の被写体にピントが合ってしまいます。
こんな場合は、フォーカスロック撮影を行います。

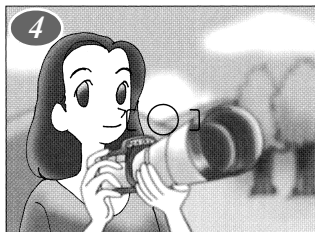


AFフレーム  を、ピントが合ってしまった手前の被写体から一旦外し、人物の顔（ピントを合わせたいもの）に合わせます。



シャッターボタンを半押しし、ファインダー内の $\blacksquare$ を点灯させたままにします。

- シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の $\blacksquare$ が消えるとフォーカスロックは解除されます。
- 別の場所にフォーカスロックするときは、1度シャッターボタンから指を離してから、再び押しなおしてください。

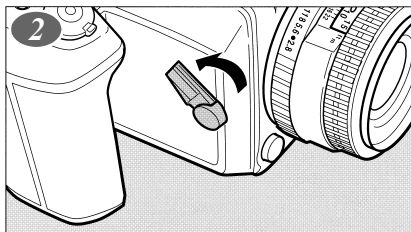
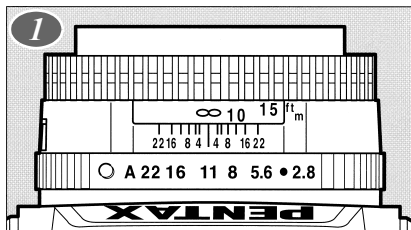


シャッターボタン半押しのまま、構図を元に戻し、シャッターボタンを押しきります。

プレビュー（絞り込み）

ファインダー上でおよその被写界深度（ピントの合う範囲）が確認できます。

- プレビューレバーを倒すとセットされている値まで絞りが絞られ、ファインダー内の表示は消えます。
- プレビューレバーを倒したままでは、シャッターはきれません。
- プレビューレバーを倒すときは、必ず絞りを **A** 位置から外してください。絞りが **A** 位置のままでは、最小絞りにまで絞られてしまいます。

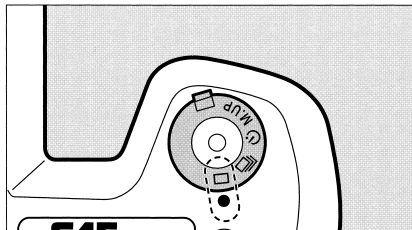


絞りを **A** 位置以外にします。

プレビューレバーを図の方向に倒すと、深度の確認ができます。

1コマ撮影

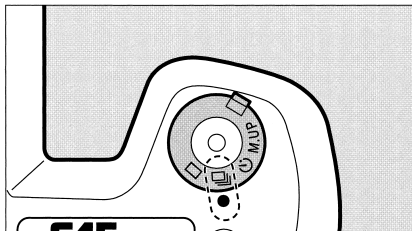
シャッターボタンを押さ
ると、1回だけシャッターが
きれます。



ドライブダイヤルを回して□位置に合
合わせます。

連続撮影

秒間約2コマの速度で連続
的にシャッターがきれま
す。



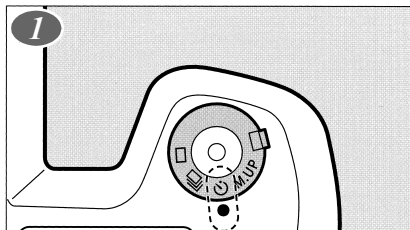
ドライブダイヤルを回して□位置に合
合わせます。

- AF モードがシングル [S] で
は、ピント合わせは1コマ目
のみ行われます。2コマ目か
らは、1コマ目で合わせたピ
ントのまま連続的にシャッ
ターがきれます。

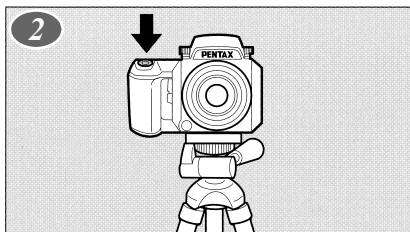
セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッターがきれる約2秒前から、電子音も速い断続音になります。
- セルフタイマーを始動後に中止したいときは、ドライブダイヤルをⓈ以外位置にするか電源を切ってください。
- ペンタックスファクションの設定により、セルフタイマーの作動時間を約2秒間にすることもできます。(P. 77 ページ)



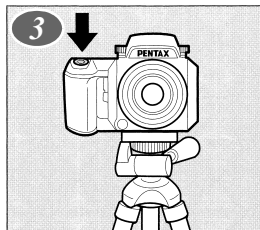
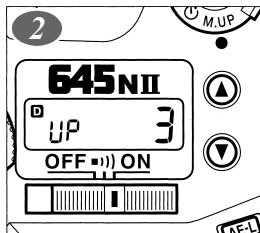
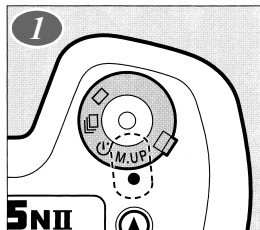
ドライブダイヤルを回してⓈ位置に合わせます。



シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押しきるとセルフタイマーが始動します。

ミラーアップ

- ミラーアップ時は、ミラーアップ直前の露出で固定(AEロック)されます。また、マニュアルでのシャッター速度の変更はできません。
- 電源スイッチが  位置になっていると、ミラーアップが行われている状態で電子音が鳴ります。
- LS レンズで、レンズシャッターをセットしてミラーアップをすると、レンズシャッターが作動してしまうため、レンズシャッター使用時のミラーアップはできません。
- 長時間、ミラーアップしたままの状態では、電池が早く消耗します。



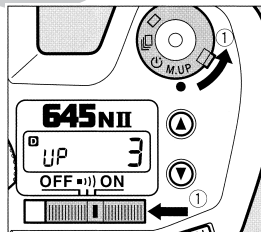
ドライブダイヤルを回して **M. UP** 位置に合わせ、シャッターボタンを押します。シャッターボタンは、半押しで止めずに、押しきります。(全押し)

ミラーが上がり、表示パネルに「UP」が点滅表示されます。

さらにもう一度シャッターボタンを押すと、シャッターがきれ、撮影できます。

ミラーアップの解除

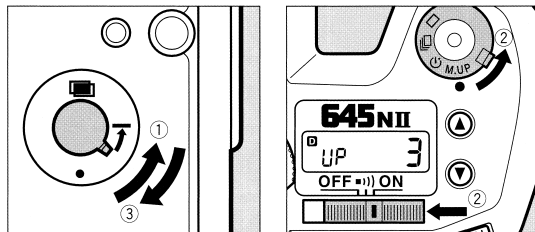
絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブの場合



- ① ドライブダイヤルを **M.L.U.P.** 以外にするか、電源スイッチをOFFにします。
ミラーアップが解除されます。

- 約5分間放置すると自動解除します。
- ミラーアップの解除時にフィルムが送られるような音がしますが、これは上がったミラーを元に戻す際の作動音です。

プログラム自動露出、シャッター優先自動露出の場合
(レンズの絞りリング位置Aの場合)



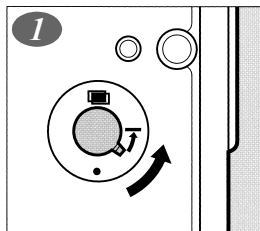
- ① 多重露出レバーをセットします。
- ② ドライブダイヤルを **M.L.U.P.** 以外にするか、電源スイッチをOFFにします。
ミラーアップが解除されます。
- ③ 多重露出レバーを元に戻します。

注意！！

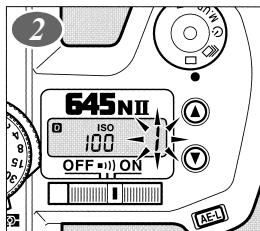
多重露出レバーをセットしないでミラーアップの解除操作をすると、フィルムが1コマ送られてしまいます。

必ず、多重露出レバーのセットを行った上で解除操作をしてください。

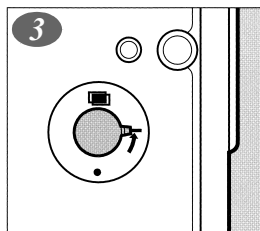
多重露出撮影



多重露出レバーを矢印方向に止まるまで回します。

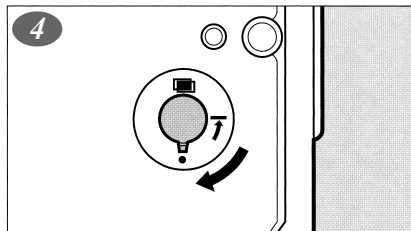


表示パネルのフィルム枚数が点滅します。

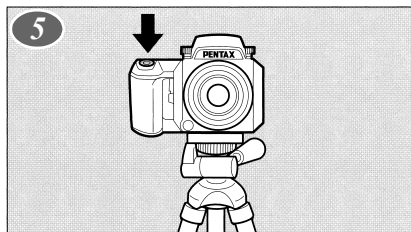


多重露出レバーがこの位置では、シャッターをきいてもフィルムは巻かれません。

- 例えば3コマの多重露出の場合、2コマ目の撮影後、多重露出レバーを元の ● 位置に戻してから3回目のシャッターをきります。
- 多重露出をセット後に解除したい場合は、多重露出レバーを元の ● 位置に戻してください。
- 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。
- 撮影データのフィルム写し込みを行うように設定している場合、最後のコマの撮影データが写し込まれます。



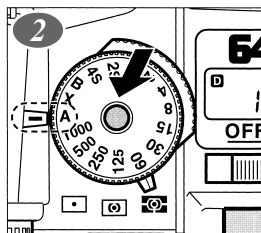
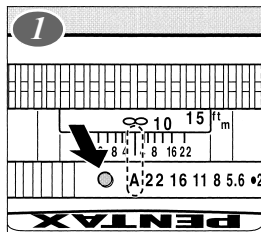
多重露出の最後のコマのシャッターをきる前に多重露出レバーを元の ● 位置に戻します。



シャッターボタンを押して撮影を行うとフィルムは次のコマまで巻かれます。

露出モード： プログラム自動露出

シャッター速度・絞り値ともカメラが自動的に設定を行います。



絞りオートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

シャッターダイヤルロックボタンを押しながら、シャッターダイヤルを **A** 位置に合わせます。

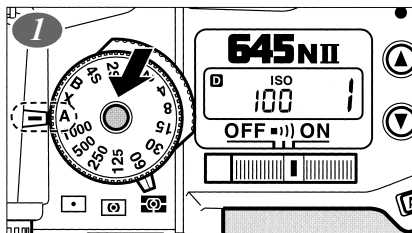
シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。
(56ページ)

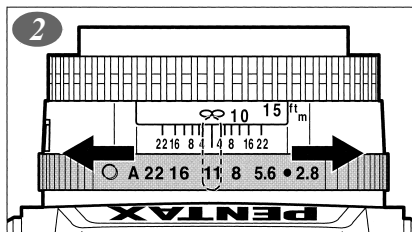
露出モード： 絞り優先自動露出

希望の絞りに合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。被写界深度をコントロールしたい撮影に適しています。

- レンズの絞りを [A] 位置から [A] 位置以外にする場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。
- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。
- ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A645 45～85mmF4.5 レンズでは小絞り側に、A645 150mmF3.5 レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれています。



シャッターダイヤルロックボタンを押しながら、シャッターダイヤルを [A] 位置に合わせます。



絞りを [A] 位置から外し、好みの絞りを選びます。

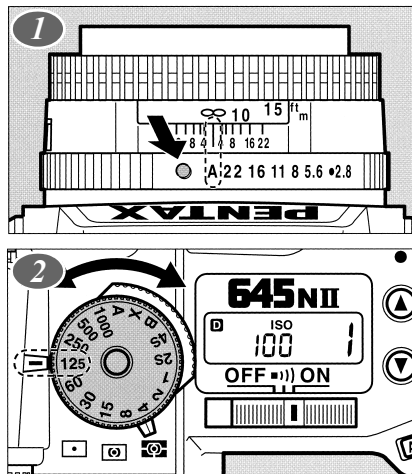


シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値の目安が表示されます。

露出モード： シャッター優先自動 露出

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わります。被写体の動きを表現したい撮影に適しています。

- シャッターダイヤルを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合は、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。



絞りオートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

シャッターダイヤルを **A** 位置から外し、好みのシャッター速度を選びます。シャッター速度は1/2EVステップで設定可能です。(☞ 55ページ)

- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。
(P.56ページ)
- レンズシャッター付レンズを使用しているときは、シャッター速度に「1/5」が表示されます。
- ストロボ撮影で、シャッター速度を1/60秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルを「X」(1/60秒)位置に合わせてください。シャッターダイヤルを「X」位置にしたり、「X」位置から外す場合は、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。

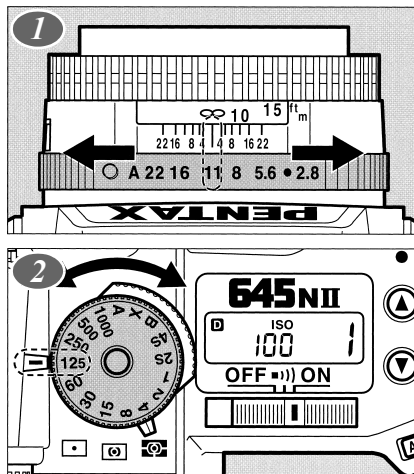


シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

露出モード： マニュアル露出

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー [明るい写真] や露出アンダー [暗い写真] にするときに使います。

- レンズの絞りを [A] 位置から [A] 位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。
- シャッターダイヤルを [A] 位置から [A] 位置以外にする場合には、シャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。



絞りを [A] 位置以外の好みの位置に合わせます。

シャッターダイヤルを [A] 位置以外の好みの位置に合わせます。シャッター速度は1/2EVステップで設定可能です。(P.55ページ)

- ストロボ撮影で、シャッター速度を1/60秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルを $\boxed{\text{X}}$ (1/60秒) 位置に合わせてください。シャッターダイヤルを $\boxed{\text{X}}$ 位置にしたり、 $\boxed{\text{X}}$ 位置から外す場合はシャッターダイヤルロックボタンを押しながら回してください。
- バーグラフの $\boxed{\text{L}}$ が $\boxed{\text{R}}$ 側に並んでいるときは露出不足、 $\boxed{\text{+}}$ 側に並んでいるときは露出がオーバーです。中心にあれば適正露出です。
バーグラフの $\boxed{\text{L}}$ 1個は1/3EVに相当します。ただし、 $\pm 3\text{EV}$ を超えた場合は、 $\boxed{\text{R}}$ あるいは $\boxed{\text{+}}$ が点滅表示します。



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度と絞り値の目安およびバーグラフが表示されます。

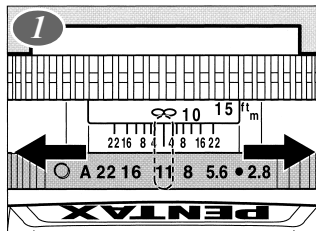
- ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。
特に、A645 45~85mmF4.5レンズでは小絞り側に、A645 150mmF3.5レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっています。
- レンズシャッター付レンズを使用しているときは、シャッター速度に $\boxed{\text{LS}}$ が表示されます。
- ファインダー内の表示が点滅している場合、適正露出が得られないことがあります。
(P 56ページ)

露出モード： バルブ

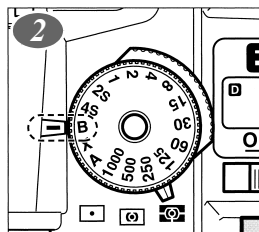
シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。

- レンズの絞りを **A** 位置から **A** 位置以外にする場合には、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。
- 絞りを **A** 位置にすると、常に最小絞りで撮影されてしまいますのでご注意ください。

—つづく—



絞りを **A** 位置から外し、好みの絞りを選びます。



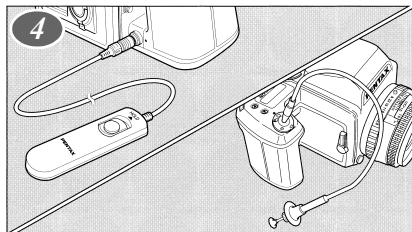
シャッターダイヤルを **B** 位置に合わせます。



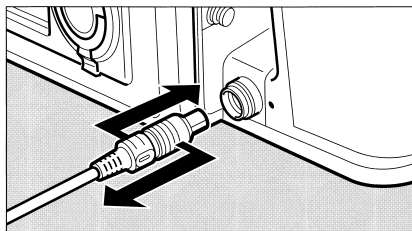
シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値の目安が表示されます。

—つづき—

- ファインダー内に表示される絞り値は目安表示です。従って、絞りリングでセットした絞りと表示される絞り値は必ずしも一致しません。特に、A645 45～85mmF4.5 レンズでは小絞り側に、A645 150mmF3.5 レンズでは開放絞り側に絞り表示がずれ易くなっています。
- 「ワンタッチケーブルスイッチ」「リリースタイマースイッチ」「ケーブルリリース」でもシャッターボタンの半押しが可能です。
- 新品電池でのバルブ撮影（露出）可能時間については12ページをご覧ください。



※リリースタイマースイッチ
ワンタッチケーブルスイッチの着脱方法



バルブ撮影でのリリースは、別売りの「ワンタッチケーブルスイッチ」「リリースタイマースイッチ」をワンタッチリリースソケットに差し込むか、「ケーブルリリース」をリリースネジ穴に取り付けてご使用ください。

取り付け方

カメラのワンタッチリリースソケット部の白点指標に、プラグの指標をあわせて差し込みます。ロックを確実にするため、プラグの金属リング部分には手を触れずに取り付けてください。

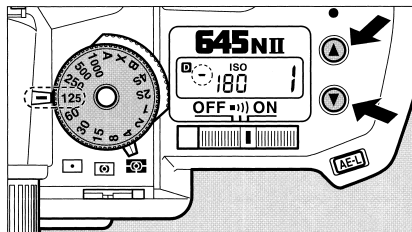
取り外し方

プラグの金属リング部分を持ち、まっすぐに引きます。

リリースタイマースイッチ、ワンタッチケーブルスイッチの操作方法などについては、それぞれの説明書をご覧ください。

1/2EVステップのシャッター速度設定方法

- 1/2EV ステップのシャッター速度設定は、シャッターダイヤルを操作するか、一旦電源をOFFにすると解除されます。
- 1/1000 より高速側のシャッター速度は設定できません。
- ペンタックスファンクションの設定により、1/2EV ステップのシャッター速度の設定を不可にし、1EVステップのシャッター速度設定にすることも可能です。(P.76 ページ)



- 1 シャッターダイヤルで任意のシャッター速度（1EVステップ）を選びます。
- 2 選んだシャッター速度に対して、アップボタンを押すと1/2EV高速側に、ダウンボタンを押すと1/2EV低速側にシャッター速度が変化します。

設定したシャッター速度は、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
表示パネルの表示には、シャッター速度を高速側に变化させたときはシャッター速度表示の左上に「+」が、低速側に变化させたときは左下に「-」が点滅します。

露出警告について

被写体が明るすぎたり暗すぎたり、設定した露出値が不適切な場合、ファインダー内の表示が点滅して警告をします。各露出モードで、どの表示が点滅するかにより、警告の意味は異なります。

- プログラム自動露出 ————— ● 測光範囲外警告
シャッター速度・絞り値が点滅



- 絞り優先自動露出 ————— ● 露出連動範囲外警告
シャッター速度が点滅
- 測光範囲外警告
シャッター速度・絞り値が点滅



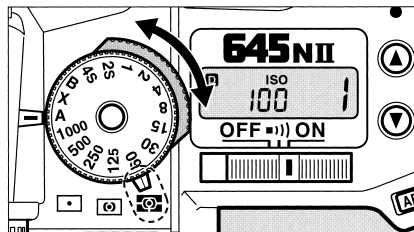
- シャッター優先自動露出 ————— ● 露出連動範囲外警告
絞り値が点滅
- 測光範囲外警告
シャッター速度・絞り値が点滅



- マニュアル露出 ————— ● 測光範囲外警告
シャッター速度・絞り値が点滅



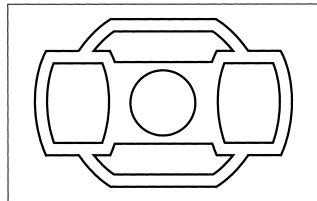
測光モード： 分割測光



測光モード切り替えレバーを図の部分を持って [A] 位置に合わせます。

分割測光について

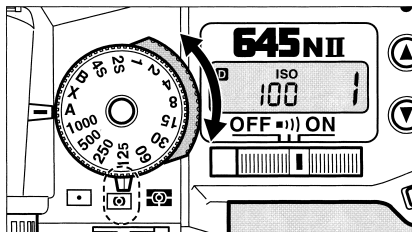
図のように、画面内を6つに分割して明るさを測る6分割測光を行っています。
この測光モードでは逆光などで人物が暗くなってしまうような条件でも、どの部分にどんな明るさの物があるかをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正を行います。



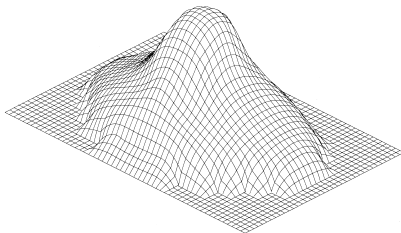
- 67レンズ用アダプター-645やヘリコイド接写リング645など、絞り [A] 位置で使用できないアクセサリーを付けた場合、分割測光を選択しても中央重点測光になります。

測光モード： 中央重点測光

分割測光のようにカメラ任せで露出を決めるのではなく、経験的に補正をして明るさを決める場合などに使います。



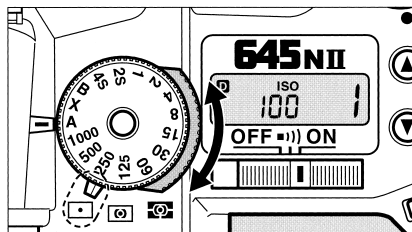
測光モード切り替えレバーを図の部分を持って **ⓐ** 位置に合わせます。



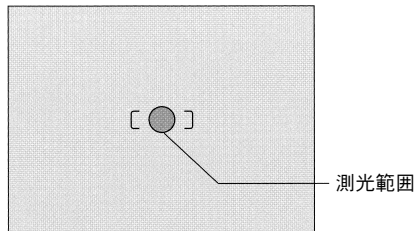
- 測光分布は、図のようになっており、高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高いことを表わしています。

測光モード： スポット測光

スポット測光は、限られた狭い範囲だけの明るさを測りたいときに使います。



測光モード切り替えレバーを図の部分を持って  位置に合わせます。



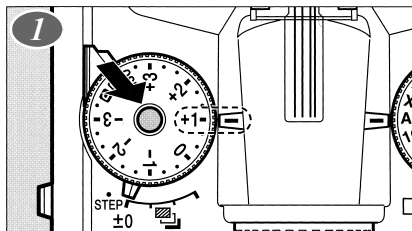
画面中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測ります。

- 中央部とそれ以外の周辺部との明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまいます。

露出補正

カメラの露出計が決定した露出値に対し、意図的に露出オーバー〔明るい写真〕や露出アンダー〔暗い写真〕にしたいときなどに使います。

- 露出補正は、 $-3 \frac{1}{3}\text{EV}$ ～ $+3 \frac{1}{3}\text{EV}$ の範囲で $\frac{1}{3}\text{EV}$ ステップで行えます。
- バーグラフの目盛り1つは $\frac{1}{3}\text{EV}$ に相当し、その上の $\square$ は補正量 -3EV ～ $+3\text{EV}$ の範囲で点灯表示されます。
- 補正量が $-3 \frac{1}{3}\text{EV}$ と $+3 \frac{1}{3}\text{EV}$ の場合のみ、 $\square$ は表示されず、それぞれバーグラフの $\square$ と $\oplus$ が点滅表示されます。



露出補正ダイヤルを $\square$ 位置から露出補正ダイヤルロックボタンを押しながら回して、好みの補正値を選びます。



ファインダー内に補正値を示すバーグラフと $\square$ が表示されます。

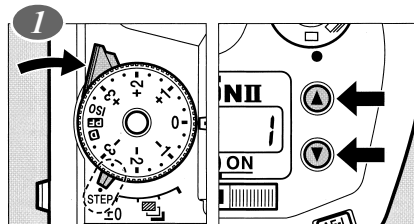
- ペンタックスファクションの設定により、露出補正のステップを $\frac{1}{2}\text{EV}$ にすることもできます。(P.78ページ)
- マニュアル露出での露出補正では、ファインダー内に露出補正値を示すバーグラフは表示されず、マニュアル露出のオーバー・アンダーを示すバーグラフだけが表示されます。ただし、 $\square$ は表示されます。露出補正ダイヤルで補正値を設定した後、バーグラフの $\square$ を中心に合わせれば、設定した補正値での撮影ができます。
- バルブでは露出補正は使えません。

オートブラケット 撮影

露出の異なる写真を、自動的に3枚連続で撮影します。

オートブラケット撮影の補正量を決定する前に、補正量のステップの設定を行います。ステップは、1/3EVまたは1/2EVのいずれかが選択できます。

●補正量のステップ設定



オートブラケットレバーを **STEP** 位置に押しつけます。

アップ/ダウンボタンを操作すると、補正量のステップが表示パネルに表示されます。オートブラケットレバーは指を離すと自動的に **±0** 位置に戻り、補正量のステップが設定されます。

1/3EV設定時

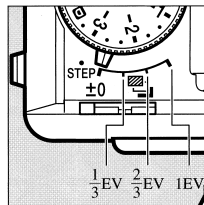


1/2EV設定時

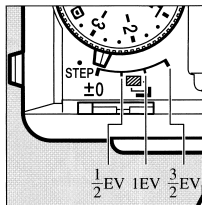


●補正量の決定

1/3EVステップ設定時



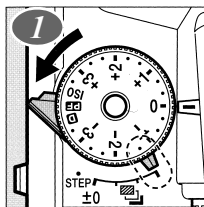
1/2EVステップ設定時



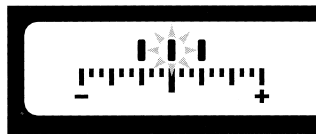
オートブラケットレバーを **±0** 位置から **右** 側に動かし、補正量を決定します。補正量は、設定した補正量のステップと、オートブラケットレバーの位置により決まります。

- オートブラケットの撮影順序は初期設定では、1コマ目＝±0、2コマ目＝アンダー側、3コマ目＝オーバー側となります。この撮影順序はペンタックスファクションの設定により変更が可能です。(P.77ページ)
- 1コマ目の撮影後は、シャッターボタンから指を離しても、ファインダー内の表示が消えるまでオートブラケット撮影の状態を維持します。ファインダー内の表示が消えると、1コマ目撮影前の状態に戻ります。
- 測光は1コマごとに行われます。
- AFモードがシングルでシャッターボタンを押したまま3コマ連続で撮影を行う場合、ピントは1コマ目の位置で固定されます。AFモードがコンティニアスの場合は1コマごとにAFが作動します。

● 撮影手順



オートブラケットレバーを希望の補正量に合わせ、シャッターボタンを押すだけです。設定した補正量ずつ露出の異なる3枚の写真が連続で撮影できます。



ファインダー内のバーグラフ表示は、これから撮影するコマの露出位置を表す「1」が点滅表示され、他の「1」は点灯表示されています。「1」の点滅位置は1コマ撮影するごとに移動します。

露出補正との組み合わせ

露出補正と組み合わせた場合、補正した値を基準にしてオートブラケットが働きます。その際のファインダー内表示については、63、64ページをご覧ください。

マニュアル露出との組み合わせ

マニュアル露出（シャッターダイヤル「M」位置を除く）でもオートブラケット撮影ができます。この場合、シャッター速度だけが段階的に変化します。ファインダー内には、露出値を示すバーグラフは表示されますが、補正値を示すバーグラフは表示されません。

オートブラケットと露出補正の組み合わせ表示例
(ブラケット補正ステップ1/3EVの場合)

オートブラケットの補正量	露出補正值	ファインダー内表示
1/3EV	補正なし	
	+ 1/3EV	
	+ 1/2EV (※)	
	+ 2/3EV	
	+ 1EV	

上表のファインダー内表示は1コマ目撮影前の状態で、は点減表示、は点灯表示を表しています。

(※) ペンタックスファンクションで1/2EVステップの露出補正を設定した場合のみ

オートブラケットと露出補正の組み合わせ表示例
(ブラケット補正ステップ1/2EVの場合)

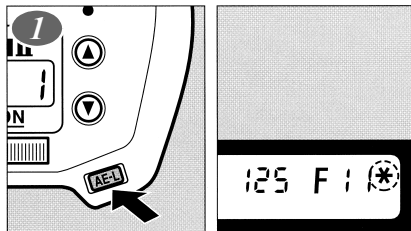
オートブラケットの補正量	露出補正值	ファインダー内表示
1/2EV	補正なし	
	+ 1/3EV	
	+ 1/2EV (※)	
	+ 2/3EV	
	+ 1EV	

上表のファインダー内表示は1コマ目撮影前の状態で、は点滅表示、は点灯表示を表しています。

(※) ペンタックスファンクションで1/2EVステップの露出補正を設定した場合のみ

AEロック撮影

AEロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせると便利です。被写体が非常に小さく適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。



露出を合わせたい物にカメラを向け、AEロックボタン [AE-L] を押すと露出が記憶され、ファインダー内に [★] が表示されます。

- AEロックボタン [AE-L] を押してから20秒間はタイマーが働き、ボタンから指を離しても露出が記憶されています。この記憶時間は、測光タイマーの設定時間の約2倍にあたるので、ペンタックスファンクションで測光タイマーの時間を20秒もしくは30秒に設定すれば、それぞれ約40秒、約60秒になります。(P.76ページ)
- AEロック中にシャッターボタンを半押ししたままにすると、AEロックボタン [AE-L] から指を離してもAEロックはそのまま継続します。
- AEロック中にもう一度AEロックボタン [AE-L] を押すと、AEロックが解除されファインダー内の [★] が消えます。
- マニュアル露出とバルブではAEロックはできません。

ストロボの使い方

- ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の $\square$ も点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
- ストロボの詳細については、ストロボの説明書をご覧ください。
- $\square$ の点滅は、露出モードがプログラム・絞り優先では被写体が暗い場合と逆光の場合に、シャッター優先自動露出では逆光の場合にのみ表示されます。ただし、逆光時に $\square$ が点滅するのは、測光方式が分割測光の場合だけです。

TTLオートで使います

- 1 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーFKを外し、ストロボを取り付けます。
- 2 ストロボの電源スイッチを入れます。
- 3 ストロボの発光モードをTTLオートにします。
- 4 ストロボの充電完了を確認します。
- 5 ピントを合わせて撮影します。

ストロボお勧めマークについて

シャッターボタン押しでファインダー内にストロボお勧めマーク $\square$ が点滅した場合、シャッター速度が低速になり手ぶれを起こしやすくなります。三脚をお使いいただくか別売のストロボをご使用ください。 $\square$ マークが点滅したまま撮影しても露出には問題ありません。

露出補正について

TTLオートストロボ撮影で露出補正を行うと、ストロボ光量と背景の明るさを同時に変えることができます。ただし、マニュアル露出では、補正後そのまま撮影を行うと、ストロボの光量だけが変化し、バググラフの $\square$ を中心に合わせると、背景とストロボ光の両方が補正されます。

当社製ストロボとの組み合わせ時の機能一覧

機 能 ストロボ名	A	B	C	D	E
	AF540FGZ AF500FTZ AF360FGZ AF330FTZ	AF400FTZ AF240FT	AF400T AF280T AF200T AF140C AF080C	AF200SA	AF200S AF160 AF140
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	×	×
外光オートストロボ撮影	○ 注1	×	○ 注2	○	○
後幕シンクロ撮影	○	○	×	×	×
光量比制御シンクロ撮影	○	×	×	×	×
ファインダー内でのオートチェック確認	○	○	×	×	×
AF補助光（スポットビーム）の投光	○	○	×	×	×
ストロボの充電完了時、ストロボ同調速度へのシャッター速度自動切換	○	○	○	○	○
プログラム自動露出およびシャッター優先自動露出時の、絞り値自動セット	○	○	○ 注3	○	△ 注4
シャッター優先自動露出、マニュアル露出時の低速シンクロ撮影	○	○	○ 注5	○	△ 注4

注1：AF500FTZ・AF330FTZは、外光オートストロボの機能がありません。

注2：AF140C・AF080Cは、外光オートストロボの機能がありません。

注3：ストロボの発光モードがMS（マニュアルシンクロ）・M（マニュアル）の場合、絞り値が自動的に変化してしまい使用できません。絞り優先自動露出・マニュアル露出・バルブでご使用ください。

注4：絞り値が自動的に変化してしまい使用できません。絞り優先自動露出・マニュアル露出・バルブでご使用ください。

注5：ストロボの発光モードがMS（マニュアルシンクロ）・M（マニュアル）の場合、シャッター優先自動露出では、絞り値が自動的に変化してしまい使用できません。

● AF540FGZ、AF500FTZ、AF330FTZ、AF360FGZ

- 暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AF補助光（スポットビーム）を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。[FA645レンズ使用時のみ]
- スレープ機能をご利用できます。[AF540FGZ、AF500FTZ、AF360FGZ]
- ストロボの液晶表示で、撮影可能距離を確認できます。
- マルチ発光モードをご利用できます。[AF500FTZのみ]
- 露出モードがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後約3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。
[AF540FGZ、AF360FGZはTTLモード時のみ約3分。その他のモードでは時間が異なります。]

● AF240FT、AF400FTZ

- 暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AF補助光（スポットビーム）を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- 露出モードがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

● AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が1/60秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はレンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ [LSレンズを含む] 使用時は1/60秒固定になります。絞り値は固定となりますが、フィルム感度により変化します。

- 外光オート [赤・緑・黄位置] で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/60秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ [LSレンズを含む] 使用時は1/60秒固定になります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

[ISO100の場合]

ストロボの多灯撮影

2個以上のストロボを同時に使用する場合は、67ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうし (A～E) を組み合わせるか、AとBあるいはCとDの組み合わせでお使いください。

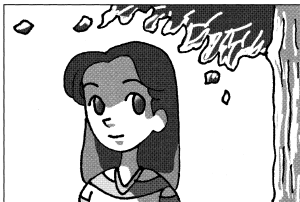
他社製ストロボを使用する場合

- 他社製ストロボ [特に高電圧や高電流のストロボ] を組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
- カメラのXシンクロソケットにコードを接続した場合は、連動機能は動きません。
- 後幕によるケラレを防ぐため、念のため、同調速度より一段低いシャッター速度を使用し、事前にテスト撮影をされることをお勧めします。

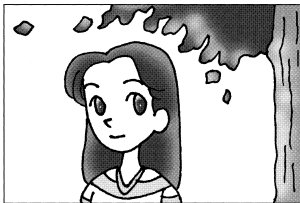
日中シンクロ撮影

昼間の明るいときでも、人物の顔に影が出てしまうような場合に、ストロボを利用すると影の取れたきれいな写真が撮れます。

日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影と基本的に同じです。ただし、背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。



ストロボなし



ストロボ使用

低速シンクロ撮影

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

マニュアル露出の場合

- 1 ストロボの電源スイッチを入れます。
- 2 マニュアル露出にします。
- 3 適正露出になるように適当なシャッター速度 [1/60 秒以下の低速] と絞りを選びます。
- 4 撮影します。

● マニュアル露出では、1 の操作は撮影前のどの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

- 1 シャッター優先自動露出にします。
- 2 好みのシャッター速度を選びます。
- 3 ストロボの電源スイッチを入れます。
- 4 撮影します。

- ファインダー内の絞り値表示が点滅していると背景が適正露出になりませんので、点滅がなくなるシャッター速度を設定してください。
- 2 の操作の前にストロボの電源を入ると、背景が適正露出になりませんので、シャッター速度を選んでから電源を入れてください。
- 低速シンクロの場合は、手ぶれを防ぐため三脚をご使用ください。